

平成25年千葉市教育委員会会議
第1回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成25年千葉市教育委員会会議第1回定例会会議録

日時 平成25年1月16日(水)

午後2時00分開会

午後3時10分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 内山 英夫
委 員 和田 麻理
委 員 篠原ともえ
委 員 中野 義澄
委 員 明石 要一
教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 小池よね子 指 導 課 主 幹 山本 幸人
教 育 総 務 部 長 竹川 幸夫 保 健 体 育 課 長 井谷 芳明
学 校 教 育 部 長 磯野 和美 教 育 セ ン タ ー 所 長 真田 清貴
生 涯 学 習 部 長 原 誠司 養 護 教 育 セ ン タ ー 所 長 沼倉 徹
総 務 課 長 初芝 勤 生 涯 学 習 振 興 課 長 松戸 利一
企 画 課 長 高須 右一 中 央 図 書 館 長 橘 高俊
学 校 財 務 課 長 山田 輝夫 生 涯 学 習 振 興 課 科 学 教 育 推 進 担 当 課 長 遠藤 悟
学 校 施 設 課 長 小野 正嗣 総 務 課 総 括 主 幹 久我 千晶
学 事 課 長 佐藤 宏喜 学 事 課 調 整 主 幹 行木 浩
教 職 員 課 長 宇田 英弘 生 涯 学 習 振 興 課 主 幹 塚越 達雄

書 記 総 務 課 長 補 佐 南 久志 総 務 課 主 査 補 諏訪 瑞穂
総 務 課 委 員 会 係 長 土肥 慶典 総 務 課 主 任 主 事 藤井 拓也
総 務 課 総 務 係 長 渡邊 実

- 1 開会
内山委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
内山委員長より篠原委員を指名
- 4 会期の決定
平成25年1月16日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 全国規模の大会・コンクール等における児童生徒表彰について
指導課主幹より報告があった。
報告事項(2) 千葉県未来の科学者育成プログラムの成果発表会及び閉校式について
生涯学習振興課科学教育推進担当課長より報告があった。
 - (2) 議決事項
議案第1号 千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則及び千葉県公民館管理規則の一部改正について
学事課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
 - (3) 発言の要旨
報告事項(1) 全国規模の大会・コンクール等における児童生徒表彰について
内山委員長 指導課主幹、報告をお願いします。
指導課主幹 報告事項(1)「全国規模の大会・コンクール等における児童生徒表彰について」、報告します。
本年度も本市の児童生徒は、さまざまな大会やコンクール等で優秀な成績を収めています。全国規模の大会においては31人が全国第1位の栄誉に輝いています。その内訳は、学芸に関する内容で10人、スポーツに関連する大会では21人となっており、うち1人は学芸、スポーツ両賞で受賞しているため、総人数は30人となります。
まず、学芸部門では、有働さん、岸川さん、黒木さん、杉本さんが、バイオリン、ピアノ演奏で優れた成績を残しています。特に、黒木さんは3年連続、杉本さんは昨年度に引き続いての受賞

となります。佐藤さんは、「『未来』をつくるコンクール」、5年生の自由研究部門で大賞を受賞しました。研究テーマは「ゲンゴロウの累代飼育」で、何代かにわたっての研究論文です。北村さんも昨年度に引き続いての受賞で、「あんざんコンクール 中学3年生の部」及び「全日本珠算競技大会 中学生の部 読上暗算競技」で優勝しています。これは昨年度を上回る成績で、日頃の不断の努力がすばらしい結果に結びついたものと考えます。千葉兄弟ですが、昨年度に引き続きすばらしい成績を収めました。今年度はメキシコで開催された世界大会で活躍しました。中村さんは、国土交通省の標語コンクールでの最優秀賞受賞のほかに、ダンスでも全国優勝しています。望月さんは、「『地球教室』かんきょう新聞」で優秀な作品を仕上げました。

次に、スポーツの部門です。鶴坂さん、澤江さん、獅子田さん、鶴岡さん、古川さん、水谷さん、本さんは、空手での受賞です。柏谷さんはヨットでの優勝、中村さんは先ほど申し上げたとおり、国土交通省の標語コンクールでも受賞しています。三島さんはバタフライ、湯原さんは背泳ぎの選手です。湯原さんは女子競泳で次代のエース候補で、同世代ではトップクラスの実力であると新聞にも掲載されました。佐々木さん、神保さん、西谷さん、野々村さん、上杉さんは、女子軟式野球の選手として全日本選手権を制し、日本一を決めるジャパンカップで日本女子体育大学を破つての優勝となりました。佐藤さん、鍋倉さん、松島さん、木村さんは、軟式野球の選手として、15歳以下の女子による全国軟式野球大会で優勝しました。皆川さんは、新体操の全国中学校体育大会において、個人総合及び個人種目別リボンで第1位に輝いています。

今報告した児童生徒の他にも、各種大会等で優秀な成績を収めている児童生徒が多数いますことを付け加えます。また、今後新たに全国規模以上の大会・コンクール等で優秀な成績を収めた児童生徒がおりましたら、再度報告します。

明石委員 児童生徒表彰というのは、名前は教育委員長の名前で出るのですか、また、この表彰というのは各学校とかご本人に渡すのか、渡さないのかという、このあたりはどうなっていますか。条例などがあるのでしょうか。

内山委員長 これは、例えばこのコンクールで優勝というそれぞれの催しの場面で表彰状をもらったという報告ですね。

志村教育長 千葉市に就学しているお子さんのそれぞれの大会での成績です。市長表彰は別にあり、それはこの中で特に優れた成績で、一般の成人も含めて、年度末に表彰されます。

明石委員 もう一つですが、空手や軟式野球について、この空手とは同じ道場なのではないでしょうか。要するに学校教育の効果として見たほうが良いのか、社会体育などの面として見たほうが良いのか、家庭の力などありますけれども、もしその空手が同じ道場ならばその指導者が良いとか。軟式野球も、2つのチームでしょうか、学校は各自違いますけれども。そうすると教育委員会としては学校教育だけではなくて、社会体育のほうでもサポートというか、目がいっていますという観点があるのです。どうでしょうか。

保健体育課長 学校教育でかかわる部分というと、皆川さんは、全国の中学生在が参加する全中体育の頂点を極めたということです。

ただ、現実的なところで補足しますと、学校籍で報告していますが、実際はクラブで出ているといった実態があります。

また、空手の流派や道場など、全国大会でいろいろな規模もありますが、一つの線引きとして、文部科学省の後援などそういったものがある大会について報告するという位置づけであると認識しています。

明石委員 次は意見です。お願いがあるのですが、例えば新聞コンクールは、これはやはり学校とか学級の先生の力があるでしょうから、それをぜひ教育委員会では褒めてあげていただきたいと思えます。個人は個人で良いのですが、ある集団でやったというのは、これはすごいことです。評価したいと思いました。

もう一つは、これらの賞をもらったときに、全校朝礼で紹介して皆さん褒めてあげていただきたいと、学校長にお願いしていただきたいと思えます。各小学校で白い垂れ幕を出して、そのお金も教育委員会を出してあげても良いですね。本人は嬉しいですよ、皆が見ているのだから。日本人は本当に褒めるのが下手なのです。ぜひ7年後オリンピックの開催も目指して、こういった運動を起こしていただけると嬉しいと思ひ、要望します。

内山委員長 何かそういった場面については現場に聞いていますか。

指導課主幹 多くの学校では、朝会や児童集会のときに紹介をしていると思ひますが、全てしているかどうかについては確認していません。

内山委員長 こういった明るいニュースをぜひ宣伝したいと思ひますね。

和田委員 過去にもこういった全国規模の大会で優勝した、表彰された

というお子さんがたくさんいらしたと思うのですが、その子どもたちが今どうなっているかというのは、とても興味のあるところだと思います。そこまで追跡調査するのは難しいと思うのですが、例えばその学校の卒業生で過去にこういった受賞をした人たちが、母校に帰ってその頃の自分の話をする「ようこそ先輩」というテレビ番組のようなことですが、そういったことを今後企画しても、今の小中学生に対する良い刺激になるのではないかなと感じました。今後ぜひ検討いただきたいと思います。

報告事項(2) 千葉市未来の科学者育成プログラムの成果発表会及び閉校式について

内山委員長 生涯学習振興課科学教育推進担当課長、説明をお願いします。
科学教育推進担当課長 報告事項(2)「千葉市未来の科学者育成プログラムの成果発表会及び閉校式について」、報告します。

「千葉市未来の科学者育成プログラム」は、理科や数学の学習に意欲的に取り組む中学生・高校生に対して、その能力を伸ばすために質の高い学習プログラムや先端科学技術を体験させる場などを提供することにより、将来科学者を目指す生徒を育成するプログラムです。今年度初めての取組みになりますが、市内中学2年生22人、市内外高校1年生5人、計27人の受講生を集め、7月7日(土)に教育センターでの開校式を皮切りにスタートしました。

科学館、千葉大学、県立中央博物館、市立千葉高校、放医研等を会場にして、学校生活や日常の中では、なかなか経験できない観察や実験、最先端の情報を含む科学の講座や講義、研究の進め方やまとめ方のセミナー等を展開しました。

そのプログラムのまとめとして、成果発表会と閉校式を1月12日(土)に教育センターで開催しました。成果発表会ではパワーポイントを活用して、受講生が普段から取り組んでいる課題研究や自由研究のまとめを発表しました。午前中はグループ別に発表を行い、各グループ担当の指導主事がコーディネートをしながら発表内容を深めたり、次への発展を考えさせたりという形で進めました。午後は、内山教育委員長、明石教育委員、志村教育長にも出席をいただき、全体会による成果発表会を開催しました。全員の前で発表したいという受講生7人の発表と、事務局の土屋主事から本プログラムを振り返るプレゼンが行われました。教育委員長、教育長、教育次長の鋭い指摘や質問に対して、落ち着いた

て受け答えをした受講生の姿が印象的でした。この後の閉校式では、受講生一人一人からの感想や感謝の言葉の発表、教育長から一人一人への修了証書授与と受講生への励ましの挨拶、市立千葉高校の高月君が受講生代表の話などがありました。受講生の振り返り、感想にもありますが、「この経験を生かして自分の夢へ向かいたい」、「学んだことを生活に、将来に生かしたい」等、前向きな受講生の声を数多く聞くことができました。

今後とも未来の科学者の育成を目指し、本プログラムを充実、発展させていきたいと考えています。

中野委員 このプログラムの趣旨について伺います。いろいろな良いプログラムに取り組んでいるようですが、実際の発表テーマでは必ずしもプログラムと関係のないようなテーマがあると思います。ただ、こういったプログラムを経験すれば良いということなのでしょうか。

科学教育推進担当課長 科学の講義や実習、体験からテーマが生まれれば一番良いのですが、受講生はやはり科学、理科に非常に興味を持っていて、もともと自分の自由研究のテーマを持っていたり、学校の課題研究のテーマがあったりしており、研究を深めていくセミナーもこの中に入れていきますので、そういった形でもよいのではないかと考えています。

次年度はこのプログラムの中からテーマを見つけてくれる受講生もいるのではないかと期待はしています。

中野委員 良い講義を受けても、テーマに結びつかないと、もったいないような気もしましたので。

明石委員 私も参加させてもらって、委員長と教育長と教育次長が鋭い質問をして、それと同時に子どもたちが良い質問をしていました。あれがやはり10回の成果かなと感じ、評価したいです。非常に良い試みです。

そこでお聞きしたいのですが、事前と事後のデータをとっていますか。27人が、プログラムに参加する前の1回目に、なぜこのプログラムに参加しましたかとか、どんなことに興味がありますかといったデータをとって、科学に関する興味関心が10回受講してどこまで変わったのか。最初からそういったテーマがあっただけで参加したのか、なくて触発されてテーマになったか。事前と事後のデータがほしいのです。事前になりたい職業と、職業選択は多少変わるのか。よく、エビデンス、データをとっていただきました

い。そのデータをとることにより、ゼミナールの中で担当の先生がついたほうが良いのか、それとも10回のレクチャーや見学だけでも良いのかなど、せっかくこれだけ1年間やっていただきますよね。そうすると、ゼミナールの中の指導教官ではないですが、3人くらいついてくれると非常に高まってくるとかということも次年度あたり検討してもらおうと良いかなというのが嬉しいです。

私が一番ここのプログラムで評価できるのは、生涯学習振興課が実施したことです。多分こういった発想は今までは指導課がやるものであったでしょう。それを生涯学習振興課がやったことが非常にこれは良い。教育センターとタイアップして、教育センターの頭脳ノウハウやネットワークと、生涯学習のフットワークで多分これができると思うのです。ですから、放医研とか医学部とか幅広いですよね。ぜひこれは生涯学習振興課のヒットとして大きく育ってくれると良いと思っています。

科学教育推進担当課長 事後のアンケートは次のためということで細かい項目まで調査したのですが、事前については募集要項の中に将来の夢という作文だけでした。今後もう少し追跡調査をして生かせるようにしていきたいと思います。

また、次年度の事前事後の評価、子どもたちのアンケート等については精査していきたいと思います。

和田委員 人数的なことですが、中学生、高校生合わせて今回27人ということですが、やはりこのくらい的人数が限界で、これ以上は難しいということでしょうか。

科学教育推進担当課長 今回一つのコースという形でしたので、この程度が限界と思います。できれば、次年度はコースを複数にしたいと思っています。そのときにも人数を増やすということは、いろいろ厳しいところもありますが、努力していきたいと思っています。

和田委員 この中学生、高校生は公募で全て集まった子どもたちということによろしいですか。

科学教育推進担当課長 はい。

和田委員 応募してきた生徒については全員受け入れたということで、今回に関して選考はなかったということですね。

科学教育推進担当課長 定員20人という形で募集しましたが、27人応募がありました。子どもたちの意欲をくんで、このくらい的人数でしたら我々も対応できるのではないかと、また、講座の講師の先生方も対

応できるということでしたので、全員を受講生としました。

和田委員 私もこの10回のプログラムの中で2回参加させていただきました。実は、周りとのコミュニケーションをとったりとか、積極的に発言をしたりという生徒は、余り見受けられなくて、せっかく普段入れないようなところに行ったり、論文でしかお目にかかれないような先生から授業を受けたりしているのに、何かそのありがたみがわかっているのかなということが少し心配になる場面がありました。どんなにすごいことを君たちは今受けているのかということやぜひ宣伝していただきたい、子どもたちにもすごく良い機会なのだよということやを言っていたらいいなと、次年度から、お願いいたします。

明石委員 私もこれは良いことだと思いますので、注文が多いのですが、小学生でやっていただきたい。小学校の3、4年生を対象に、初めて社会科、理科が入ってくる3年生から、鉄は熱いうちに打てと。科学をやっている研究者の卵に聞きますと、大体幼児期、児童期の初期に岩石に興味を持ち、次は天体に興味を持ちます。それが本当に児童期の初期なのです。そうすると、3、4年生をターゲットにして、できれば岩石など物理的なものや、化学のほうでやっていただきたい。意外と生物学のほうは余り関心がなくて、今の千葉大学の理系で入った工学部、理学部の学生では、大体、物理や化学が好きな方が理系へ行っており、生物は理系に行っていないのです。物理と化学がキーワードです。それを小学生バージョンで行い柔らかく育ててほしいです。小学生から中学生で2つのコースを。中学生を広げるよりも、学年を下げたほうがよいでしょう。

志村教育長 和田委員のお話しの件は、10回目の反省のときには、皆が行けないところに行けてと皆がそういった感じで言っていました。やはりあれは大人がすごいのだよと言うものではなくて、実際に自分が体験し、それを友達に話したりなどして自分でわかっていくものなのだろうという感じを持ちました。多分、あれをやった子たちが、友達に話したり下級生に話したりして広がっていく。これを全部受けるとこういったところに行けるのだというのが口コミで広がっていくということが結構良いのではないかと思います。

明石委員のお話しの件については、科学館で科学クラブをやっていたり、星座のほうのアストロクラブと言いまして、保護者と

子どもと一緒に選んでコースを決めていろいろなところでやっているという数がかなり多いです。それがきっかけになってこれにつながってきているのかなと思います。お話しにもあったのですが、どうしても小学校のうちは指導課主体になりがちなのです。理科センターで実験実技研修会などというのが全部指導課主管なのです。これを生涯学習主管に持っていくことは大事ですが、せいぜい小学校の5、6年生あたりまでこれから下ろしていく、だんだんそういった形になっていくのだらうと思います。ただ、科学館のほうにもう少しバックアップして、いろいろなコースがあるということをもっと市民に周知するとまた違ってきます。本当は子どもたちだけで来てほしいのですが、やはりいろいろな問題があります。科学館でやっているコースにはたくさん子どもたちが来ていますので、それをもっと充実させればと思います。9か年、例えば小学校の1年生の頃に教えたいことがありますから。とにかく、今回緒について初めて実行させたことで、今後もう少しそのあたりのところを頑張ると、皆、担当もやってくれるとありがたいと思います。

明石委員 追加ですが、女性宇宙飛行士の山崎さん、彼女は小学校2年生のときにお父さん、お母さんと札幌に住んでいまして、天体を見た、星を。あれで宇宙に興味を持っているのです。松戸に帰って小学校4年生で科学クラブに入って、中学校当時、爆発したチャレンジャー、あれを中3のときに見てショックを受けて、英語を勉強して、宇宙に行きたいという、そういったステップがあるのですよね。小学校2年生まではファミリーでやっていただきたい。3、4年生からは、学校教育は大事ですがやはり実験に追われてカリキュラムで行きますが、柔軟な発想で、社会教育と言いましょうか、生涯学習振興課で児童期もやっていただくとよいと思います。未来の科学者の冠をつけていますから、千葉市からもっと宇宙飛行士とか、生みましよう。

篠原委員 私は火星ローバーコンテストをずっと見させていただいていますが、約15年続いていますので、皆さん小学校から中学校にかけてずっと続けていらしています。

今回、この未来の科学者育成プログラムは今年が初めてです。ですから、これから10年、20年と続けていくことによって、最初は中学生、高校生をがっちり、そしてこれでいけるのであれば小学生でもこういったプログラムでもいけるのでは、と

いったように進むのではないかと私は期待しています。そういった形でも良いのではないかとということを聞きながら思いました。

あと、来年度の募集はいつ頃からですか。

科学教育推進担当課長 今年度第1回が7月7日でしたが、もう少し早めないとしても夏休みが重なるということで、我々としては6月開校式を目指して、5月の初めには募集を開始しようと考えています。

篠原委員 今回10回のプログラムで、いろいろな分野に対してこのグループの子どもたちが全部受け持っていますが、もう少し分野を分けてという、そのような発想はありますか。

科学教育推進担当課長 もし3コースにできるような人材や環境など整いましたら、そういった形でやって行こうという考えはあります。協力いただく方、大学などにも打診はしていますので、来年度すぐというわけにはいかないかもしれませんが、将来的には複数分野、複数コースを見据えていきたいと思っています。

篠原委員 ありがとうございます。よろしくお願いします。

和田委員 少し話が戻るのですが、まず12月26日に千葉大学医学部に伺ったときに、最後に先生に質問をしました。今、O-157でとても権威のある先生なのですが、先生は今のお仕事に結びつくような出来事は何か中高生時代にあったのかとか、いつ頃から興味をお持ちになったのかというような質問をしたところ、中学、高校時代は陸上競技に一生懸命で、全く科学の勉強も物理の勉強も興味がなかった。ただ、小学生のときに北里柴三郎の伝記を読んだことが職業選択のもとになったというようなお話を伺いました。小学校時代からという大事なお話がありましたが、科学に直接的なことでなくても、例えば読書教育であったり、ほかの社会的な教育であったり、いろいろな側面から子どもにアプローチができると思いますので、片隅にその先生のお言葉をとめておいていただければと思いました。

あともう一つは、どうしても小学校のうちからということになりますと、家族、保護者の方の力が非常に大きいと思うのですが、なかなか親御さんがそういったことに関心がなかったり、興味がなかったりすると、そこのご家庭の子どもはどうしてもそういったところに行く機会が限られてしまいます。そういった家庭で余り興味を持っていないという子どもたちに届くような方法が何かないかと、私も教育委員になってからずっと考えているのですが、これはとても難しく、学校の担任の先生のお力とか地域の

力を借りていくしかないと思います。その中で子ども未来局との連携、ほかの部署との連携ということも出てくるとと思います。例えば年間を通して、科学的なプログラムだけではなくて、千葉市全体で子どもたちのためにやっているプログラムをわかっている範囲で全部日程を出して、それを千葉市のホームページで一括して見られるようにするとか、学校にも子どもたちの手に渡るように、年間を通して大体こんなことをやっているということがわかって、それを先生からも説明していただけるような場をつくるとか、具体的なことをやっていかないと、なかなか普段興味を持っていないご家庭の子どもたちには届かないと思います。そういったきめ細かいアプローチをこれからぜひ手を携えて、計画もしていただきたいですし、私たちも広告塔となっていきたいと思えます。

内山委員長 たくさんの意見をいただきました。私もできるだけ参加したいと思い加わったのですが、生涯学習部でこの課題を担ってやっているとのこと。やはり学校での教科の学習以上に、自主的な活動としてこういったテーマを自分で選んで研究していくと、これは自分が興味を持って一生懸命やりますから、良い成果が出ていたと思います。そういった意味で、最初の試みですけれども、これから十分に検討して、良いプログラムにしていきたいと、よろしくをお願いします。

和田委員 先ほど科学館のお話が出まして、科学館のことでもよろしいでしょうか。

高校生無料の日というのが年間何回か設定されているようで、昨年も年末の12月23日と、それから1月13日にも行われているようなのですが、無料にすることによって、その日の高校生の入館数は増えているのでしょうか。それと、ここ数年高校生無料の日が設定されていると思うのですが、これによって高校生の目が科学館に向いてきているのかということがわかりましたら教えてください。

科学教育推進担当課長 科学館の高校生無料開放日ですが、12月23日は100人前後、1月13日は120人程度ということです。プラネタリウムのほうでは、1回目は無料なのですが、2回目を見たという高校生もいました。プラネタリウムの観覧などはリピーターとして科学館へまた来ることにつながると思います。

また、この無料開放日だけではなく、今回の育成プログラム、

青少年のための科学の祭典、科学フェスタ、千葉市立高校と科学館の連携講座などと連動しながら、高校生を増やしていきたいと思っています。

高校生の来館が着実に増えているというデータもまだないのですが、連動することを繰り返していけば、高校生ももっと目を向けてくれるのではないかと考えています。また良いアイデアがありましたら教えていただければと思います。

議案第1号 千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則及び千葉市公民館管理規則の一部改正について

内山委員長 学事課長、説明をお願いします。

学事課長 議案第1号「千葉市立小学校、中学校及び特別支援学校の通学区域に関する規則及び千葉市公民館管理規則の一部改正について」、説明します。

今回の改正は、磯辺小学校及び磯辺中学校の設置並びに幸町第四小学校の廃止に伴う所要の改正を行うため、規則の一部を改正しようとするものです。

通学区域に関する規則の一部改正については、さきの平成24年第4回市議会定例会において、千葉市立小学校設置条例及び千葉市立中学校設置条例の一部改正案が議決されたことによるものです。

統合後の幸町第一小学校の通学区域は、「幸町第一小」学区と「幸町第四小」学区をあわせた幸町2丁目11番16棟から28棟、12番から23番及び新港の一部となります。また、磯辺小学校の通学区域は、「磯辺第一小」学区、「磯辺第二小」学区及び「磯辺第四小」学区をあわせた磯辺3丁目から8丁目となり、磯辺中学校の通学区域は「磯辺小」学区と「磯辺第三小」学区をあわせたものとなります。

この通学区域の規則の改正に伴い、公民館管理規則別表の磯辺公民館の所管区域を市立磯辺中学校通学区域と改めます。

規則の施行期日は、平成25年4月1日です。

明石委員 この学区を決めましたよね。そうすると、千葉市では、学区に住んでいる先生はほかの学校に転勤しなければいけないという、何か変な申し合わせがあると聞きましたけれども、私からすればとんでもないと思うのですが、この4月の人事でそのように動かすのでしょうか。校長、教頭は学区に誰か住まなきゃいけないのです。3.11の大震災が来ましたね。宮城も岩手ももう全

部見直しているのです。だから、当然管理職は全員住むのだけでも、教員も住んでも良いと。すぐ体育館を開けるとか、避難場所をつくるというのがあるのですが、こういう学区の見直しをする場合に、4月の人事異動でここに住んでいる先生はこの学校に行ってはいけないとなるのですね。そのあたりを今後、教育委員会の事務方としたら見直すのでしょうか、見直さないのでしょうか。私としてはできたら若いフットワークの良い先生が学区に住んで、すぐ体育館を開けるとか、教室を開けるというくらいに、そういったことを想定して、今までの人事の見直しもやっていただきたいという要望です。

全国の調査を見ますと、日本教育新聞もそれを調査しました。半分が今までの人事異動を見直すと。また半分はいろいろな事情で学区に住んではいけない、申し合わせがあるのです。学区に住んではいけないという申し合わせは本当にあるのでしょうか。

教職員課長 今まで千葉市のほうで先生方の生活区域と学区が同じにならないようにということで配慮するという形ではとってきています。

ただ、統合によって、隣の学区に住んでいたものが今回一緒になったということで、前例にもあるのですが、そういったときに強制的に異動させるというようなことは行っていません。たまたま隣の学区だった者が統合により一緒になって、学区内になった場合について、本人の希望によりますが、そのまま残りたいということであれば、そこに残すという形になるかというように思っています。

明石委員 統廃合はわかるのですが、そうでない場合はどうするのでしょうか。先生方をお願いして、例えば3分の1くらいはできたら住んでいただくとか、強制できませんよ。せめて1人ぐらいは住んでいただきたいとかという、そういった危機管理的な面も考えていただけると良いかと思えます。

教職員課長 現時点ではそのようにということは申し上げられませんので、それについては、検討はさせていただきたいと思えますが、今までの形としては、生活区域と学区が一緒にならないようにということで考えてきたということです。

学校教育部長 もう1点の防災の観点ですが、これに関しては管理職2人のうちどちらかが30分以内に対応できるようなことを考えて、人事異動等も進めているところです。

7 その他

- (1) 平成25年千葉市成人を祝う会について、明石委員、志村教育長、中野委員、和田委員、内山委員長、篠原委員より要望・所見が述べられた。

明石委員 1月14日の成人式に出席させていただいて思ったことは、あの式典プログラムの審議はこの会議で検討されたのでしょうか。主催者として教育委員会という名前が出ていますよね。あの案件は、私は一応責任の一端はあるのだからという形で、例えば、なぜ千葉市の歌が入っていないくて、知らない歌を歌わせるのか。こども未来局が担当しているかもしれませんが、それは所管にお願いしたいのですが、プログラムの中身くらいはここに出していただきたいと思いました。

そのときをお願いしたいのは、例えば千葉県レベルの成人式のデータをとっていただきたい。例えば、君津市はすごいですよ。中学校区で成人式をやっています。今の校長と前の校長、5年前の校長と旧担任が出るのです。小さな中学校区単位で、表彰など褒めてあげたりして、中3のときに書いた二十歳の君への手紙を皆に渡します。そちらは全然暴走しない。今回は30人弱が暴走しましたよね。非常に温かくやってくれて、それで評判が良いということです。千葉県でいろいろな良いことをやっている例が多いです。約8,800人、多分参加者は5,000人くらいだと思うのですが、あのやり方で果たして良いのか。大阪市は区単位でやっていますよね。区単位が良いのか、それとも中学校区単位でもっとアットホームにして、5年前のことを語り合うとか、簡単な茶話会や、夜はまた別があるらしいのですが。成人式というのは、せっかく相当税金をかけています。ですから、区単位や中学校区単位でできないかなということがあります。

志村教育長 職員の数が足りません。中学校区で56に分かれなければいけないわけですから、学校の職員が運営するという形としても、学校の職員を日曜日に総動員しなければいけないということで、結局今の形が、職員とか比較的手間のかけない方法としてきています。

今回こういったことがあっていろいろな反省もありますが、もともと青少年課がやっていたものをこども未来局に移管したときに、行事も一緒に移管されて、その間で共催の仕方の議論が十分になされないまま進んでいました。ただ、今回も新成人座談会がありましたが、これも含め大分見直されてきています。

それから「大地讃頌」も皆さんは知らない歌なのですが、子どもたちにとって一番なじみの皆で歌った歌は何かと言えば、残念ながら千葉市歌ではなくて「大地讃頌」です。どこの学校でも合唱コンクールで皆歌っているということで、同じ歌で統一して歌えるだろうということと、先生方もお祝いの会の際に駆けつけて一緒に歌うことによってお祝いをできるということで始めたものです。それまでは、いわゆるローカルバンドのようなものなど、いろいろなことをやっていた時代もあったのですが、今の形になってからはもう7、8年たつと思います。主管はこども未来局に移っていますので、私どもでどの程度言って良いのかという問題がありますが、今の要望はとても大事なことです。担当から十分伝えたいと思います。

明石委員 そうですね。56ありますから、中学校区単位は難しくても、区単位くらいは。あんなに人が集まるとざわざわするのは当たり前なのです。委員長がしゃべっていても聞いてくれない、立ち歩いて、失礼ですよ。そういったやはりルールをどこかで教えないと、もう二十歳だったらあとは自己責任でしょうけれども。

中野委員 同じような意見です。全員が着席しないで始まる式典なんてあり得ないと思いますが、ましてやあんな暴走しているような人たちを放っておくというのは、社会の上ではそれではいけないということをお教えるというのがやはりあのような式であって、本来ならば退出させるべきではないでしょうか。それができないのでしょうか。

せっかく市長さんが話していても大声で騒いでいて話が聞こえない、ちゃんと真面目に聞いている人もたくさんいるわけですから、そういう人たちにとっても邪魔になりますし、あれを今までと同じようにやっていて、歩いている人たちもいっばいいたりして、良くないと思います。式典としてやるのであれば、全員きちんと着席したのを確認して始めるべきではないでしょうか。私はそのように思いました。

和田委員 本当に毎年私も申し上げているのですが、やはり行政が行うのであるから、どういうつもりで千葉市は成人式というものをやっているのか、もっと趣旨であるとか目的であるとかということをおっしゃるべきだと思います。

それと、新成人にとってははっきり言って同窓会の場になっていると思うのです。私たちも、仕方がないよというように理解し

てあげるのは、それは年長者の責務ではないと思います。中野委員も明石委員もおっしゃるように、あれは式典ではないと私も思います。

明石委員 職員の方に頭が下がる。本当に体を張って止めてくれている。

和田委員 人数が多くて止め切れないかと思いましたね。

明石委員 約30人近くいましたね。やはりリーダーがいるのですよ。

あれを中学校の先生方があの子は自分の母校だというのをどこまで把握しているのでしょうか。一度あのビデオを中学校の生徒指導担当に見せてほしいです。

和田委員 彼らも自分たちの主張があって、この場で新成人全部に言いたいとか、行政に何か言いたいとか、先生に何か言いたいといったことがあるわけではなくて、ただ騒いでいるだけというのがより良くないことだと思います。会場から一度出て行き、またもう一度戻ってきましたよね。何で入れたのかなとも思うのですが。

志村教育長 今のお子さんたちの傾向というのは、一つの学校から出て群れるというよりは、携帯での群れのほうが多いですから、あそこも幾つかの学校の、当時学校の外に出て活躍したというか、元気だった子どもたちなのだろうと思います。今までですと、式典が始まるともう出て行って、下でたむろしているというグループがいたのですが、今年は雨と雪で居場所がなかった。それに大体1回出すことによって入れないようにするわけですが、入れないで出す場所が本当に今年の場合はなかったので、2階と下のロビーのところにどうしてもたむろして、騒いでまた戻ってくるという形をとってしまったようです。

それが理由ではなく、きちんと指導しなければならないのですが、その日に指導するというのも難しいですし、文書を配ってこのようにしようということも伝わらないし、やはり成人の日を迎えるまでの15歳とかそういった頃からずっとマナーを育てていかなくてはいけないと、実感します。

静かに式典に参加しましょうという、ほとんどの子どもはわかっているわけですが、何人かがあんな形をしますので、どうやってあの子たちを指導するかというのは、担任の先生方も頭を痛めているのだろうと思います。

今年は職員がよく頑張ってくれて、いろいろな機関にお願いするというのも必要ですけども、ほかの荒れている市町村では、初めからガードマンを雇っているということがもともとこのとこ

ろ多いですから、それがないわけですが、少しいろいろな面で反省しなくてはいけないことがありました。

和田委員 その一部の新成人のことはもちろんですが、先ほど中野委員がおっしゃったように、全体としてもざわざわしている中でということにも問題があると思います。

志村教育長 中では携帯を使わないというマナーですね。携帯があって友達同士で確認するということがざわつきの8割の原因ですから、あそこに集まっていて同じ学校同士で会うたびに携帯を使う、それがいつまでたってもつかまらないというので、式典と区別するようにしなくてはいけないとは思いますが。少しやり方について担当局とも協議して検討していきたいと思っています。

内山委員長 こども未来局とよく相談しながらですね。せっかく新成人を私どもが迎えて、本来お祝い場なのに余り楽しくない雰囲気ではまずいと思いますので、ぜひ現状の対応策でうまく乗り切れるか、それとも何かもう一つ工夫する余地があるかどうか、検討してください。よろしくお願いします。

明石委員 それでお願いですが、教員研修であのビデオを流していただきたい。私も最初で、あそこまでいっていると思っていませんでした。30人弱が徒党を組んでいる。何もコメントはつけず、あれをずっと流して、君が代の歌のときに声を控えている人と歌わない人と立ち歩きしている人がいましたね。あれを見て皆さんはどう思いますか。15歳から5年たってああいった姿になったのは誰が責任をとるべきかという、それをディスカッションしてくれると教員がまた頑張ってくれると思います。やはり式典というのは大事なので、年に1回か2回の式典というものはきちんとさせていただきたい。ぜひ研修の中であのビデオを編集して、職員の熱心さ、本当は中学校の教員があれをやらなければいけないのですよ、行政の方がやってくれたいでしょう。本当に頭が下がりました。私はツイッターで褒めました。

和田委員 あと、プログラムとしては、毎年マイナーチェンジではありますが、とてもよく工夫されていて、今年は2分の1成人式ということで、小学生が生で出演してくれたりとか、ああいうのはすごく良いなど、新成人が自分の10年前を振り返ったりするのではないかなと思いました。

志村教育長 今年出ていただきますので、見ていただきたいのですが、中学校の卒業式は、どこの学校も、式典として非常に整然と行われ

ます。歌もきちんと歌います。それで、どう式典に臨めば良いのかということは、中学校3年生のときにはわかっています。

私は思うのですが、高校の3年間、そして高校に行かなかった子どもたちも含めて、その15歳から20歳までの育ちがどうなっているかということが全く見えなくなっています。一般の高校生は別にしても、社会人になった方たちが、ではそういったマナーを使えるような社会になっているかといえば、横断歩道を赤で渡っても構わない社会になっていけば、そういった発散する場所として彼らがあそこを選んだのだらうなと思いますので、その部分の5年間はすぽっと抜けているような気がしてなりません。

篠原委員 20歳の新成人たちの感覚としては、成人式は待ち合わせの場でしかなく、本当にそのような感じでしかあの式に臨んでいないのではないかと思います。その意識をもう少し明確に変えていかないと、待ち合わせはあそこが良いわ、みんなが集まるわと、それで終わってしまいます。今回2分の1成人で子どもたちが出てきて少し雰囲気が変わり、静かになりましたよね。やはりそういったアピールを加えることはとても大切です。

内山委員長 大多数がそんな感覚でしょうか。

篠原委員 大多数がそうですよ。

和田委員 保護者の方もそうです。たまたまその2日前に、成人式を迎える3人の保護者の方と話しました。私がそういったことを少し言いましたら、同窓会のつもりで出すつもりでいたけれども、ちょっと意識を変えて子どもに言いたいと思うと言ってくれました。恐らくご家庭でも、いってらっしゃい、何とかちゃんと会えるわねという、そういったような意識ですね。

内山委員長 式の意義そのものが問われますね。

和田委員 なかなか参加人数が多いですから、市全体でやるので非常に難しいとは思っていますが。

内山委員長 他都市の研究もしてみれば、ヒントがあるかもしれませんね。

志村教育長 昔は午前の部と午後の部でやらないと入り切らないくらいの人数でした。今少子化の中でああですから、それもありますが、やはりきちんとマナーを教えるということを繰り返しやるということが正論なのでしょう。

和田委員 出席率はすごく良いのですよね。7割くらいいるのではないかと思います。

志村教育長 午前の部、午後の部とやっていた時代から子どもが減ってい

っている割には、わかっているけれどもやらないのですよね、そういうことは感じました。

内山委員長 ご意見がいろいろ出ましたけれども、また検討して良い方向へ持っていきたいと思います。よろしくをお願いします。

(2) 1月14日の大雪による学校現場への影響について、和田委員より質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

和田委員 成人の日に降った大雪ですが、きのうもまだ少し道路状況などで乱れがあったようですけれども、学校関係で何か影響や破損などありませんでしたか。

学事課長 降雪による臨時休校が2校です。これは特別支援学校の2校、市立養護学校と第二養護学校で、スクールバスの運行上危険であるということで、やむなく臨時休校としたものです。

それ以外に7校程度、1時間あるいは2時間登校を遅らせて、少し固まった状態で、少しでも子どもたちの危険性を除くために遅らせてという形です。

2校が臨時休校、1、2時間程度の遅れが7校ありますが、それ以外は通常の登校でした。

和田委員 現場の判断で的確にやっていただきありがとうございました。

(3) 中学校社会科「領土に関する教育」について、指導課主幹より報告があった。

指導課主幹 中学校社会科「領土に関する教育」について、報告します。

中学校社会科での「領土に関する教育」は、地理的分野、公民的分野で行います。

地理的分野では、学習指導要領の内容の(2)「日本の様々な地域」の中のア「日本の地域構成」において学習する内容が示されています。ここでは、わが国の国土の位置や領土、領海、領空からなる領域について学び、我が国の海洋国家としての特色や領土をめぐる問題については、北方領土や竹島を取り上げ、わが国が正当な立場に基づいて主張していることなどに着目させるように指導していくこととなります。教科書では、学習指導要領に従い、日本の位置や領域、経済水域を明確に図示し、海洋国家であるわが国の国土の特色を学習するように構成されています。また、領土をめぐる問題では、北方領土が日本固有の領土であるが、ロシアによって占拠されており、返還を求めているが実現していないこと、竹島も日本固有の領土であるが、韓国が占拠しており、対立が続いていること、また尖閣諸島についても日本固有の領土であるにもかかわらず、中国が領有を主張していることなどが記

載されています。

次に、公民的分野では、学習指導要領の内容の（４）「私たちと国際社会の諸課題」の中のア「世界平和と人類の福祉の増大」に学習する内容が示されています。公民的分野では、地理的分野とは異なる視点で領土について学習することとなります。世界平和の実現や人類の福祉増大のためには、国際協調の観点から国家間相互に各国の主権を尊重し合うことの重要性を認識させていくこととなります。国家には主権があり、主権の及ぶ範囲が領域であること、互いに尊重するためには、国家間の協力が必要であること。国家間の問題として、わが国においても領土をめぐる未解決な問題が残されており、平和的な手段による解決に向けて努力していること等を学習していくこととなります。教科書では、国家主権の及ぶ範囲という視点から領域をとらえることのできるように構成されています。また、国家にはシンボルとして「国旗と国歌」があることや、国際間で互いの主権を尊重し合うためにルールがあることを学ぶこととなります。義務教育の最後の段階で、このような視点で「わが国日本」について学習することは、社会科の目標である「わが国の国土と歴史に関する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」を実現するためには、意義深い内容となっています。領土をめぐる問題については、北方領土、竹島、尖閣諸島について、地理同様、わが国が正当な立場に基づいて主張している内容について着目させるように資料が掲載されています。

指導課で作成しています年間指導計画は、各学校が年間指導計画を作成するために、参考例として示されたものです。地理的分野の内容については、中学１年生の２月ごろに学習するように設定してあります。また、この単元の「目標や評価規準」などについて示してあります。公民的分野では、中学３年生の２月ごろ、まさに義務教育の最後の時期に学習するように設定してあります。同じくこの単元の「目標や評価規準」などについても示しています。

明石委員 中学３年生の公民で２月に単元を扱うのですよね。この時期は試験準備や卒業式の練習などで、指導要領や解説書にはこう書いているけれども、実際どのくらい授業がされているかというデータを今後とっていただくと良いと思います。ちょうど今度２月

に入りますから、中3の公民でかなり授業をやってもらうことが必要かなと感じています。

領土問題にしてはいけない、領土ということで議論できるような子どもたちを育成したい。変な愛国心はおかしいものであって、やはり事実は事実として学習させるということが必要かなと思いますのでお願いします。

貴重な資料をありがとうございました。

内山委員長 非常に難しい問題の分野ですね。明石委員がおっしゃったように、きちんと議論ができるような、そういった知識を与えるということで、考えていければと思います。

(4) 次回第2回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。

8 閉会

内山委員長より閉会を宣言